

B 118 乳幼児の衣服設計に関する研究(才1報)一形態の特徴一
滋賀女短大○奥村 董 東京医科歯科大解剖 中沢 愈
京女大家政 工井サチ子・福井 弥生・藤田 仁美

目的 適合性のよい乳幼児服を設計するためには、乳幼児の体型の特徴や様相を、把握することが基礎として重要であるとの考えから、身体計測を行ない、発育段階における形態の特徴をとらえ、考察を試みた。

方法 資料は、京都市内在住の0才から3才までの男女児で、1984年7月から1982年6月にわたって、計測を行なったものである。研究項目は、成長の様相や形態をとらえるため、かつ衣服設計に必要な項目を抽出して検討した。年令区分は、0～1年を3ヶ月ごと4グループに、1～3年を6ヶ月ごと4グループ、合計8グループとした。計測方法は、工業技術院による日本人体格調査の乳幼児の計測方法に準拠した。臥位姿勢における高径、矢状径の計測には、工井考案の乳児用計測器を用いた。(京都科学標本製作)

結果

- ・6ヶ月位までは、臍圍が腰圍を上回るが、3年位になると腰圍が臍圍を上回る。さらに一年位から、女子の腰圍が男子を凌駕するようになる。
- ・横矢示数は、体幹部の中では臍部が最も高く、腹部のふくらみが目立ち、腰部は低く偏平である。
- ・頭圍は2年ぐらいまでは、臍圍、腰圍よりも優れ、2年以後になると腰圍が上回る。